

こんにちは、魔王です。勇者くんいますか？

大学生カッコカリ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

勇者と魔王の一発ネタ。

詳細？そんなもの、ないよ…（トニオさん風）

自己満足のために書いたので、気に入らなくても文句は受け付けませんので悪しからず。

目次

こんにちは、魔王です。勇者くんいますか？	1
待ち合わせすつぽかされた仲間たち	4

こんにちは、魔王です。勇者くんいますか？

魔王・なあ勇者

勇者・なんだよ

魔王・お前王様に呼び出されたって聞いたけど、何があつたん？

勇者・あー、お前倒せって命令された

魔王・ほー。でもよく喧嘩して倒されてるよね俺

勇者・それな。けど殺さないとダメだとか

魔王・はー？なにそれちよつと王様と直談判してくるわ

勇者・待て待て待て。そしたらうちにしわ寄せがくるだろが

魔王・あそつか。んじゃ首持つてく？どうせまた生えるし

勇者・生首持つてつたら普通に基地外だろ

魔王・せやな。てかなんで殺されないとあかんの？

勇者・それ俺も聞いたんだけど支離滅裂。

ここんとこの疫病とか作物の不作がお前にあるとかなんとか

魔王・ええ…俺普通に城下町で遊んでるだけなんだけど…てか疫病

とか作物はあくまで自然災害ですって。俺の魔法の専攻光魔法だし

勇者・魔王が光魔法とかギャップなww

あとお姫様攫われたから助けてくれって

魔王・マ？ちよつとまって、部下に聴いてみ

ごめんさつきリイン（LINEみたいな奴）来てウチの馬面のエグが嫁さんにもらつたって

勇者・マジかよそのエグさんどこにいるん？

魔王・この城下町から東に出て10分くらいの村。あとお姫様プロ

ポーズ受けておKしたんだって

勇者・マジかwwただの駆け落ちじゃんww

魔王・ブサメン好きだったんだってww

喜んで良いのか悪いのかわかんねって悩んでたわww

勇者・じゃー王様に姫さまのことだけでも話してくるわww

魔王・いてらくww

勇者・全部話してきたわ

魔王・どだった？

勇者・白目剥いて泡吹いて倒れて隠居するってw

魔王・www

勇者・あと討伐とか良いからもう二度と顔出さないでってww

魔王・wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww

〜後日〜

魔王・あ、エグからリインきた

勇者・姫さまと駆け落ちした？なんてきたのさ

魔王・なんか強力な滋養強壯の薬知らないかって。病気かな

勇者・待て、よもやすると姫さまの性欲についていけないとか？

魔王・またまたwアイツ毎日3回は又いてるって言ってたぞw

勇者・だよな、前に入学式に入った時もめっちゃお淑やかそうだったし！その筈だよな…

魔王・なんか引つかかるけど、取り敢えず薬師の豚頭のポド連れて話してくるわ。あ、ガツコに言い訳よろ

勇者・おK、いてらく

〜数日後〜

魔王・たでーま

勇者・おかり。どだった？

魔王・薬は処方した。後は本人たち次第だつてさ

勇者・え、何か重い病気だったん？

魔王・いや：姫さまの性欲だったwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww

勇者・wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww

魔王・朝2回、昼3回、夜10回やらないと気が済まないとかW
性欲モンスターすぎるわW W W W W W W W W W W W W W W W

勇者・よくエグさん死ななかつたなW W W W W W W W W W W W W W W W

魔王・薬処方したら泣いて喜んでたよW W腹上死しなくて済むって

W

勇者・男の夢だけど情けない死に方だしなW

魔王・あ、そういえばガツコの言い訳なんて言ってたん？

勇者・ああ、女抱きに行くって

魔王・戦争不可避

勇者・こい、魔王！

魔王・いくぞ、勇者よ！

次の日、学校に現れた2人は、顔に沢山の引っかけ傷と青あざを作って登校しましたとき。

魔王は教授に叱られ、課題を出されました。

勇者は嘘をついた罰として、魔王の課題を半分受け持つことになりましたとき

こうして世界はなんだかんだ続いていきましたとき

待ち合わせすつぽかさされた仲間たち

女魔法使い・ねえ、まだ勇者様来ないの？

女戦士・アタシに言っても知らないよ

シヨタ僧侶・王様に手紙送りましたけど、まだ返事来てないんです
…すみません…

女魔法使い・僧侶くんは悪くないわよ。元はと言えば、王様が勇者を魔王退治に向かわせるから、酒場で待っていてくれって依頼したんじゃない

女戦士・そうそう。こういうのは依頼者の不手際なんだから、僧侶くんは気にしなくて良いぜ

シヨタ僧侶・グスツ…ありがとうございます

女戦士・しつかしヒマだな…。いつ来るか分かんねえ以上酒飲むわけにもいかねえし、かと言って筋トレしてるのもなあ…

女魔法使い・私も手持ちの魔道書全部読みきっちゃったし。レベル足りてないから使えないけど、爆炎魔法のスキルレベルカンストしちゃったわよ

シヨタ僧侶・僕も初級ですけど、回復魔法で最大体力の半分くらい回復できるようになりました。勇者様のサポートする準備は万全です
すね！

女戦士・その勇者が来ないことには始まらないが…あつ！勇者いた！

女魔法使い・えっ、どこ!?

女戦士・メインストリートのリングゴしか売ってない店で金リング見てやる！

ちよつと声かけてくる！

シヨタ僧侶・僕も直ぐに行きます！

女魔法使い・そこで逃すんじゃないわよ！

女戦士・もち！

シヨタ僧侶…？金のリングゴってなんです？

女魔法使い・それは後！

女戦士・すまん、逃した

女魔法使い・嘘、いま着いたのに!!

シヨタ僧侶・あうう…人混みに酔いました…

女魔法使い・なんで逃しちやったのよ!

女戦士・しようがねえだろ!? 声かけて早く冒険行くぞって言った隣にいたやつが転移魔法で連れて逃げたんだよ!

女魔法使い・転移魔法…ってマジ?

シヨタ僧侶・? どうしたんですか?

女魔法使い・転移魔法っていうのは、非常に高度な魔法なの。空間内の時間流を瞬時に解析して、その上で座標の異物確認、空間歪曲率、転移成功率を全て計算して、その上で自分のMPを全損する覚悟でやらないと成功の芽が出ないくらい難しいの。

女戦士・分かりやすく、3行で、頼む

女魔法使い・超難しい。ヤバイ、無理。あびやー

女戦士・なるほど、分かりやすい

シヨタ僧侶・でもそれを瞬時に発動させた方は一体誰なんでしょう?
?

女戦士・なんか凄え仲よさげだったぞ。

声かける直前コントみたいなのしてたし

女魔法使い・勇者様って確か魔法学校に通ってるんだから…10代よね?

女戦士・ああ、大凡15〜17つてとこだったぞ。その歳で大魔法使いやら賢者と知己になるとは考えにくいな

シヨタ僧侶・となると、一緒にいたのは幼馴染や友人といった、普通の方の可能性が高いんですけど…

女魔法使い・魔法学校の学生が転移魔法なんて高等魔法使えるわけないわ。私5歳から魔道書読みふけてるけど夢のまた夢よ

シヨタ僧侶・あれ、女魔法使いさんって何歳なんですか?

女戦士・ちよおま

女魔法使い・別に隠すことでもないし良いわよ。26よ、20年間魔道に浸りこんでるわ

シヨタ僧侶・その女魔法使いさんでも転移ができないとなると…見た目を偽ってるか、そもそも人間ではない、エルフや長命の種族の可能性もありますね

女戦士・エルフってあの耳長のか？

あいつらは人間嫌いだし、森の中から殆ど出てこないぞ

女魔法使い・それにエルフが城下町にいたらそれこそ大騒ぎになるわ。他の長命の種族も同じよ、人間は直ぐ騒ぐから滅多に寄り付かないの

シヨタ僧侶・うーん、じゃあ後は…

あつ、すいません、ちよつと抜けます！

女魔法使い・えっちよ

女戦士・何、なんかあったのか？

女魔法使い…返信こないわね

女戦士・眼の色変えてすつ飛んでったからな…少し待つか

シヨタ僧侶・お待たせしました

女戦士・お疲れさん、何があったよ

女魔法使い・いきなり飛び出してたからびっくりしちやったわよ、どうしたの？

シヨタ僧侶・あの、また勇者様を見つけたので会いに行つたんです
女戦士・何!?

女魔法使い・それを早く言わないとダメよ!どこにいったの!?

シヨタ僧侶・幼馴染の方と温泉に行くつて言つてました。あと転移をしたのはやっぱり幼馴染の方だそうです

女魔法使い・嘘でしょ…私学生に魔法使いとして負けてるの…?

女戦士・かわいそうになあ…で、転移が使えるつてどんな幼馴染だよ。まさか人じゃないとか言わないよな? w

シヨタ僧侶・魔王だそうです

女戦士・

女魔法使い・

シヨタ僧侶・そして冒険は始めなくて良いそうです

女戦士・どゆこと？

女魔法使い・わがんね

シヨタ僧侶・よく喧嘩して時々負けるから討伐は既にされてると解釈されて、魔王とか魔物の脅威みたいなものもなくなってるそうです

女戦士・

女魔法使い・

シヨタ僧侶・それと確証はないんですけど、姫様が馬面の魔物と駆け落ちしたからそれどころじゃないとか

シヨタ僧侶・あ、あとさつき王様の使いの方が見えて、謝罪文と依頼金を倍にして払うから依頼を撤回するそうです

シヨタ僧侶・あれ？

シヨタ僧侶・あのー…

女魔法使いは引きこもった。プライドを折られた彼女は、爆炎魔法だけでなく氷、風、土、光、闇の魔法の最上位魔法も習得したが、転移魔法だけは習得できず、食料が尽きるまで家から滅多に出なくなっ
てしまったという。

女戦士は農家となった。

魔物を倒すための筋肉は農筋に、背中に背負っていた大剣は伐採用の大鋸に変わった。

時折ゴブリンの里に畑を作りに出向き、帰ってくるときにはお土産を山のようにもらって帰ってきた。

シヨタ僧侶は持ち前の才覚を發揮し、最年少の大神官となったが、

男盛りのシスター達にねぶるような視線に晒されているそうなの。

さて、そんなことになる原因を作った勇者と魔王は…

魔王・なあ勇者

勇者・どうしたよ

魔王・お前女だったの？

勇者・今頃気づいたのか

魔王・だって胸なかつたら今まで

勇者・サラシと変化の魔法で隠してたからな

魔王・じゃあ女湯行つて

勇者・なんだよ、俺とお前の中じゃないか。恥ずかしがるなつて、お前の見たつて何も無いだろ？

魔王・うん、というか異性として見てないから見られたつて何も感じないけど、俺の社会的立場が危うくなるから女湯行つて？

勇者・おう今聞き捨てならないことを言ったな？このグラマラスボディを前にいつまで耐えられるかな？試してみるかこんちくしよー

魔王・残念、俺痴女には勃たないんだ

勇者・このイ○ポ！

魔王・なにおう?!おぼこが一丁前に誘つてんじやねえ、あと10年経つてから出直せ！

勇者・おやおやおやあ?10年経つてからとということは何?やっぱり異性として見てんじやないこのムツツリスケベ〜wあそーれムツツーリムツツーリw

魔王・ものの例えとかわかりますう?あつわかんないかそうだよね馬鹿にしてるやつに裸を見せて真っ赤になつてるくらいだもんね知らないよねえ!

勇者・魔王テメエこのやろおおお!!

魔王・勇者このクソ痴女があああ!!

大浴場で大騒ぎして仲居さんにガチギレされましたとさ